

点滴チューブを利用した ニラの合理的なかん水施肥技術



写真1 点滴チューブ設置状況
(2008年撮影)

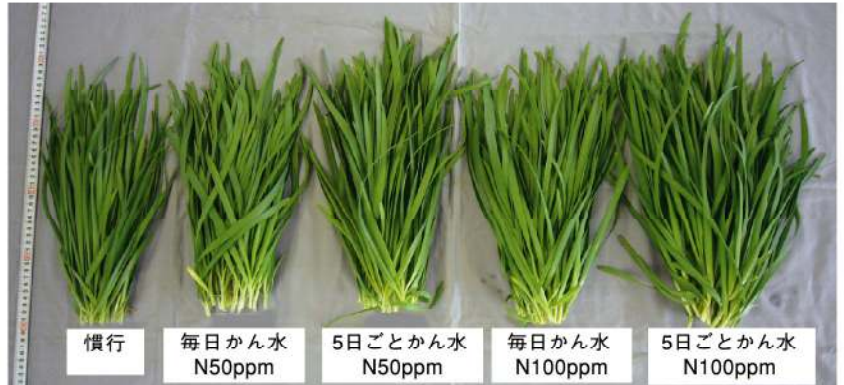


写真2 2番収穫時の生育状況 (2008年2月4日撮影)

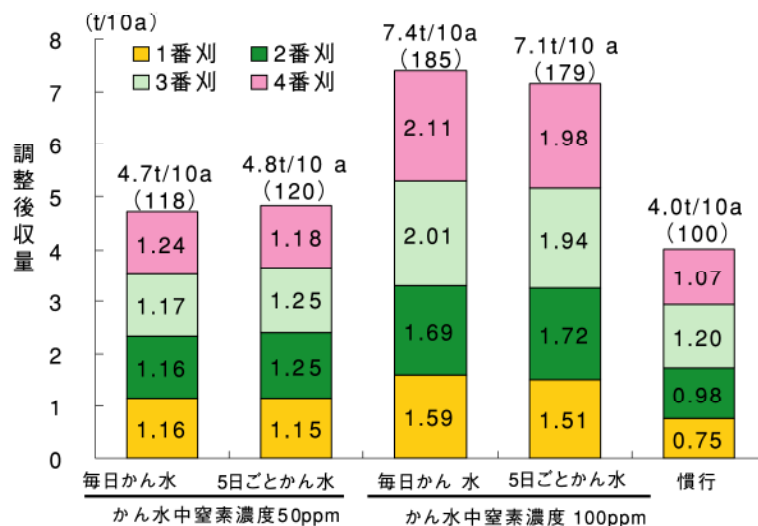


図1 点滴チューブを用いたかん水同時施肥法におけるかん水量およびかん水中窒素濃度とニラ調整後収量 (1〜4番合計)

注) 供試品種: 'スーパーグリーンベルト'。毎日かん水区: 200ml/株・日、5日ごとかん水区: 1,000ml/株・5日。
生育期間: 1番: 11月6日〜12月18日 (42日間)、2番: 12月19日〜2月5日 (49日間)、3番: 2月6日〜3月18日 (42日間)、4番: 3月19日〜4月22日 (35日間)。
点滴チューブはハイドロPCND (20cmピッチ、1.75L/H) を使用し、4条植えの条間に3本設置。
使用肥料はトミブラック (10-4-6)。

第51号に引き続いて点滴チューブを活用した合理的なかん水施肥法について紹介します。刈り捨て以降の追肥について、毎日かん水区では1回のかん水量を200ml/株、5日ごとかん水区では1,000ml/株とし、かん水中の窒素濃度を50または100ppmの2段階として試験を行いました。

その結果、収穫日を同日とした場合、1〜4番までの合計収量は、慣行区 (頭上かん水

: 7日ごとに1,400ml/株、ふり肥: 有機質肥料または有機化成配合肥料で窒素6kg/10aを収穫ごとに一括施用) に比べていずれのかん水方法でも大幅に増収し、窒素濃度50ppmでは約1.2倍、100ppmでは約1.8倍となりました (図1、写真2)。今後は、さらに品質の高いニラ生産を目指して、作期別の適正かん水量や収穫前の水切りについて検討を行います。

(土壌肥料担当 岡林美恵 088-863-4915)